

II-B-19

マウス肥満細胞腫培養細胞株に於る顆粒の分化成熟の誘導

井上勝美, 原田孝之, 鈴木幸雄,

長崎真琴, 森川 茂

(島根医大・1 病理)

我々はNZBマウスに脾腫瘍として自然発症した肥満細胞腫より培養細胞株を樹立し、その形態学的・酵素細胞化学的性状に関して報告してきた。今回、その株化細胞(BSP-MST-2)を用いて、化学物質投与による顆粒の分化成熟の誘導に関して検索したので報告する。BSP-MST-2はその胞体内に多数の好塩基性顆粒を有するが、正常肥満細胞に比しメタクロマジーの所見は弱く、電顕的観察による顆粒の性状も、電子密度の低いものから progranule を含有するものまで様々な成熟段階のものがみられたが、全体として未成熟状態であった。蛍光組織細胞化学法によるセロトニン(5HT)の含有に関する検索でも、ほとんどの細胞が反応は微弱であった。酪酸ナトリウム 1 mM の共存下で培養 1 日目より MST-2 細胞は正常肥満細胞顆粒と同様の電子密度の高い胞体内顆粒を多数保有するようになり、かつ 5HT の蛍光の増強がみられ、成熟顆粒への誘導が明瞭に認められた。現在、その他の種々の化学物質による顆粒の分化成熟に対する影響、並びにヒスタミン等に対しても蛍光法で検討中である。